

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 28

事業所番号	2671600233		
法人名	有限会社 康生会		
事業所名	グループホーム 三愛の里		
所在地	〒621-0002 京都府亀岡市千歳町千歳白髭17番地		
自己評価作成日	平成28年8月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成28年10月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○家庭的な環境で、利用者様の身になって行う介護を心掛けている。</p> <p>○地域との関わりを密にして、利用者様と社会のつながりを大切にしている。</p> <p>○見晴らしの良い高台にあり、180度近い景色を楽しめます。庭には柿・すもも・さくらんぼ・ぶどう・みかん等の果樹があり、花や果実を楽しんでいます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>亀岡市の北部、出雲大神宮の傍の高台にあり、開設14年になるグループホームである。周りを庭が取り囲む平屋一戸建て、庭には柿、ブドウ、あんず、すもも、ミカン、さくらんぼの樹があり、プランターに野菜をつくっている。眼下にひろがる里山風景が見事である。ほとんど寝ている人にベッドから外の風景が見えるように、嚙下機能が低下している人に細かくしてもおいしいうなぎを、一流料理店を利用していた人には有名店のステーキを、毎日家族に電話したい人、「痛い」と常に訴える人、福知山に帰りたい人、職員は「やがて往く道」と考え、一人ひとりの利用者の暮らし方とペース、性格や考え方、願っていること等をくみ取り、きめ細かく対応している。ホーム内では職員だけで話をしないように、利用者と共に暮らすホームであると位置づけている。利用者にとって自分流の自由な暮らしが実現している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎週、月曜日に職員で唱和して、日頃の実務に活かしている。	理念は「利用者・家族の身になって介護、感謝と謙虚な心、住み慣れた地域で楽しく有意義で尊厳ある暮らし(要約)」であり、開設時に作成されたものを簡潔にまとめている。パンフレットに明記し、運営推進会議で発表している。理念の実践として、職員が一方向的に良かれと思って介護するのではなく、利用者の気持ちを常に汲みとることが必要だと考えている。また利用者にはできることをしてもらって誇りをもってもらうことを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・事業所は地域の一員としての自覚を持ち、日常的に交流を図っている。 ・買い物や美容室など、地域の店舗を利用している。	ふだんは食材や日用品を近くのスーパーで買った後、婦人会が収穫した野菜を近くで売っているのを買に行き、近くの人から野菜をたくさんいただくこともある。美容院、散髪屋さん、郵便局等を利用している。地区の運動会を見学に行く。公民館で開催される宝船祭り(文化祭)には利用者の作品を出展したり、屋台や舞台の演芸を見に行く。	ホームの玄関先でカフェをし、近くの人に来てもらい、交流したり、近所の人に庭で収穫した果物や野菜のおすそ分けをしたい、自治会の回覧板にホームの紹介をした広報誌を入れてもらったり、ホームの行事に参加してもらったり等々、地域の人との日常的な交流が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症等の相談を受け付けている。 ・認知症サポーター養成講座を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヵ月に一度、運営推進会議を開催している。相談をして、取り上げられた意見等については、実際のサービスの向上に繋がられるように努めている。	家族、自治会長、地域住民、市高齢福祉課、地域包括支援センターが委員となり、隔月に開催し、記録は全家族に送付している。介護事業所の人手不足、夜は職員が1人であることへの不安、虐待の件等種々意見交換している。「自然災害の際、地域で互いに助け合うにはどうするか」という意見について検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議、集団指導等で、協力関係の構築に努めている。	亀岡市とはふだんから報告や相談は怠らず、連携を保っている。亀岡市に事業所連絡会があり、情報交換や研修に参加している。亀岡市主催の災害シンポジウムに参加し、災害時に備えている。なんたん在宅医療連絡研究会での事例検討会に参加して学んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・時間を決めて、開閉扉の開錠を行っている。	身体拘束についての職員研修を毎年実施し、職員はスピーチロックについて認識している。ベッドの4点柵をしている利用者があり、家族の同意をとっている。門扉は毎日12時から15時、施錠していない。玄関ドアは施錠せず、居間からも、居室からも、庭にできる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員会議で話し合い、学び、連絡事項は漏れがないように伝え、内出血の痕等においては、その都度原因究明をして、再発防止に努めている。 ・ご利用者への不適切な対応等、気付いたことは、管理者に報告して、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・研修を受けて、学んだことをしっかりと現場で活かせるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・説明をして、理解と納得をしていただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・玄関先に意見箱を設け、いつでも誰でも意見を伝えてもらえるように、環境整備に努めている。年2回の家族会を開催して、意見を聞き、意見交換や集約に努めている。	家族には利用者の写真、行事予定、認知症の記事を掲載した『家族通信』と担当職員が書いた個別の便りを毎月送付している。敬老祝賀会や食事を兼ねた家族会を年2回開催し、多くの家族が参加し、利用者と一緒にゲーム等を楽しんでいる。毎週面会に来る家族、利用者を外出や外食に連れ出す家族もいる。撮りためた写真をアルバムにして退去時に進呈したところ、「辛いので要らない」という意見によりやめている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議を毎月2回実施。各職員の意見や提案を全体で共有して話し合い、その話し合った結果を随時、日頃の業務に反映させている。	職員会議はその日の出勤者により毎月2回実施、運営とケースの検討や研修をしている。職員は異動やシフト、外部研修受講の希望等を言うことができ、外部研修は受講料や交通費の援助がある。毎朝交代で3分間スピーチをしており、その日の状況によってはできない日もあるので、「なんとか工夫したい」等、職員は提案や意見を言っている。公益社団法人モラルジー協会の講師による研修を受講している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・必要な資格や経験などは、常に各職員個々がチャレンジしやすいような環境作りに努め、決して意欲を損なうことがないように条件整備に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員の力量を見極め、目標レベルに到達できるように研修の機会を設けている。毎月、道徳研修を実施している。今現在、事業所内で必要とされる研修等は、全ての職員に受講してもらうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・協議会等に職員が参加し、他事業所との意見交換・情報交換を行い、研修にも参加している。また、グループホームでの体験交流により、日々のサービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・初期段階にて、ご本人が環境に馴染んでいるかどうかなど、注意して観察するとともに、ご本人が言いにくいことや、言葉に表現しづらいことがあることを前提として、各職員がそれぞれに話しやすい環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・各利用者とその家族においては、入所前に、その生い立ち(生活歴)や生活全般の様子、その課題等において聞き取りを行い、関係性構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人とその家族等においては、初期段階での対応とニーズを見極め、随時状況に合わせて必要とされる支援を実施できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者と職員の立場においては、サービスを提供するだけの一方通行な関係性ではなく、利用者の方々にそれぞれに尊重して、共生できる生活環境が構築できるよう日々努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・入所後においても、ご家族においては、ご本人との家族としての絆を大切に、各生活場面において積極的に協力をしていただき、共にご本人を支えていっていただけるよう、日頃のコミュニケーションを大切にして、関係性構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・地域の催し、家族との外出等(散髪・外食・法事)に、積極的にご参加していただく機会を提供できるよう努めている。	ある利用者が以前から利用していた美容院は送迎してくれるので、希望の髪型にしてもらい、シャンプーやトリートメントも買い、お金も自分で支払っている。墓参りがしたい利用者に同行している。家族の協力で家族や親族が集まる法事の席に利用者が参加できるようにしている。毎日家族に電話してほしいという利用者を支援して電話をかけている。利用者がステーキが好きでよく食べに行っていた店に同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・リビングで歌や体操、ゲームを行う際、ご本人自ら参加されようとしないうちに声かけを行い、孤立をされないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後も、今までの関係性を大切にしながら、利用時同様にフォローを行い、随時相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の気持ちに寄り添い、希望や意向の把握に努めている。	利用開始時には本人や家族、友人、利用していたケアマネジャー等から利用者の情報を収集している。「安心して暮らしたい」「福知山に帰りたい」等、本人の思いを聴取している。岡山、京都、福知山等の出身地、現役のときの仕事は時計の修理、洋裁等、生活歴を聞いているものの、情報は非常に少ない。	利用者の思いを把握し、毎日の暮らしを支援していくためには、利用者がこれまで過ごしてきた長い人生を聞き取って記録し、職員が情報の共有をしながら、利用者の暮らしを支援することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所前のアセスメントやケアプランに目を通して、状況や情報の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・朝と夕の申し送りや、生活チェック表を確認して、一人ひとりの現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・家族の意見や意向を踏まえ、毎月開催している職員会議やケアカンファレンスで検討し、計画作成をしている。	介護計画は「歩かせてほしい」等、家族の意見を聞き、計画作成担当者が作成しているものの職員の認識が薄い。介護計画は身体介護の項目が多く、暮らしのなかの楽しみがほとんどない。毎日の記録は生活チェック表で点検しており、介護計画を実施したときの記述がない。モニタリングは「ケアの実施」「目標達成度」「利用者・家族の満足度」「今後の方針」について点検している。	介護計画は利用者、家族、担当職員、ケアマネジャーでサービス担当者会議を実施し、検討した上で作成すること、利用者の課題への対応のみならず、暮らしの中の楽しみの項目を入れること、介護記録は介護計画を実施するたびに利用者の発言や表情を記録し、モニタリングの根拠となるようにすること、以上の3点が望まれる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の記録をしっかりと取り、気付いたことを職員間で共有できるよう、報告・連絡・相談をするようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・優先順位(まず、必要とされるニーズをしっかりと判断する)と柔軟性を持って、本人や家族の状況に対して、迅速に対応できるようにしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・一人ひとりの尊厳を重視し、楽しく暮らしていただけるように、支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・医療機関への受診については、家族の希望を聞き取り、適切な医療に繋がれるように支援している。	協力医である内科医が毎月2回往診に来院し、利用者の体調管理をしている。ホームには非常勤の看護師がおり、日常的に利用者の体調管理をしている。1人の利用者は本来のかかりつけ医に家族が定期受診に同行している。歯科は訪問歯科医を利用している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・一人ひとりの利用者の方々との関わりの中で、気付いた情報を記録して、看護師に伝え、個々の利用者が適した看護を受けられるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・医療関係者と常に情報交換を行い、関係性強化を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・家族と話し合い、病院の方針をともに共有して、日頃の支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に関するグループホームとしての指針を「重度化した場合における(看取り)指針」を作成し、契約時に利用者や家族に説明し、同意をとっている。延命処置は希望しないという家族も多い。指針では、希望によりターミナルケアを実施するとしている。職員には医療的な研修を実施している。事例はまだない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・日々の体調管理に努め、2ヶ月に一度の救助訓練を実施し、急変時の心構えや実務を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・月に一度訓練を実施。火災や地震に備えている。 ・地域の消防団とも連携している。	避難訓練を毎月実施しており、職員は手順や自分の役割を確認している。危機感が薄れてきてはいけなないので、抜き打ちの訓練も実施している。AEDを備え、職員は訓練を受講している。ハザードマップを掲示し、危険個所を認識している。備蓄を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個人のプライバシーを守り、一人ひとりに合った言葉かけをして、人格の尊重に努めている。	一人ひとりの利用者にあつた声掛けをすることで、利用者との信頼関係をつくるようにしている。ふだんからよくない言葉や対応には注意あっている。暮らしの種々な場面で利用者の自己決定を大事にし、うなづきや表情やしぐさで利用者の気持ちをくみとるようにしている。服、髪型、お化粧等、おしゃれを支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日頃から利用者との会話の中で、思いや希望を聞き取り、自己決定をしてもらっている。 ・家族様とも協力して、墓参りや外出をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・その日の状態を把握して、一人ひとりのペースを理解しながら、希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・季節の応じた身だしなみや、本人の希望される衣類を着てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・嗜好に合った物や食べ物をお聞きして、一週間のメニューを決め、利用者が確認できるように掲示している。食事の作り方を利用者の尋ねたり、食事の準備や片付けも一緒にしてもらっている。	利用者に食べたいものを聞いたりしながら、食材の買物に行き、調理、味見、盛り付け等もふくめて、利用者と一緒にやっている。L献立は、朝食は毎日パンと牛乳、昼食夕食は野菜が豊富な利用者が食べられた家庭食である。食卓に花を飾り、職員も共に会話しながら食事を楽しんでいる。毎月2日はカロリー計算と栄養バランスの点検をしている。外食も利用者の楽しみである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養バランスや水分補給等、状態に応じて支援に努めている。食事量や水分量は、チェックシートにて管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・口腔内の汚れや、口臭予防として、毎食後口腔ケアを実施。清潔保持に努めている。 ※介助の必要な利用者には、きちんと支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表を用いて、時間配分を確認しながら、声かけをしてトイレ誘導を実施している。利用者の負担軽減も踏まえ、リハビリパンツやパットの使用量を減少できるように努めている。	尿意があり、トイレに行くという排泄の自立をしている利用者は2人、他はパットを使用しており、職員がパターンを把握して声掛け誘導している。水分補給、食物繊維、牛乳やヨーグルトの提供とできるだけ体を動かすこと等により、自然排便を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日の排便状況を確認して記録をとり、その把握に努めている。便秘予防のため、こまめな水分摂取や、食物繊維の多い食事の提供に努めている。また、日頃より体操やレクレーションにて、身体を適度に動かしていただく時間を設け、日頃の便秘予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴チェック表を使用して、その日の入浴状況を把握。その都度、入浴される利用者には、希望の入浴時間等を確認している。また、入浴に際して、バイタルチェックを行い、体調管理に努めている。入浴が億劫な利用者には言葉かけ等工夫を凝らした入浴支援を行っている。	洗い場も浴槽も広めの家庭風呂、窓が大きく明るい。週に3回の入浴を契約書に明記し、支援している。重度化したため、介助に3人が必要となる利用者については家族の同意をとって週2回にしている。肩までゆったりと浸かること、歌を歌うこと、職員とゆっくり話をすること等が利用者の入浴の楽しみである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日々の体調等、様子観察を行い、一人ひとり無理のない生活場面や生活環境の提供に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個々の薬事情報としてファイルを作成。用法や用量を確認している。変更がある時は、きちんと連絡ノートに記載して、間違いがないようにしている。職員間での共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・各利用者においては、興味を持たれることや、得意なことを手伝ってもらい、また園芸や料理、片付け等を一緒に行ってもらっている。 ・誕生日には、事前に各利用者嗜好に合ったメニューをお聞きして、夕食に準備している。みんなでお祝いをする機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・予約した店舗の送迎によって、行きつけの美容院に行っていたいたり、家族と法事や食事等、一緒に出掛けてもらう場面の提供に努めている。	ふだん食材や日用品の買物にスーパーに、婦人会が売っている野菜を買いに等、利用者と一緒に行く。出雲大神宮のお田植祭を見物に、友好関係のある他のグループホームの行事に招待されるとき、地域の運動会や宝船祭り(文化祭)の見物等も含めて外出は2、3人の利用者ができている。外食や初詣、八木まででかける花見等はできるだけみんなで出かけている。個々の利用者の希望による外出は家族に協力を依頼することが多い。	利用者がホーム内に閉じこもりがちにならないように、外の空気に触れて風景を見ることが、外部の人と交流することの2点において、たとえ重度になっても外出支援の意義は大きい。毎日一定時間、車いすを玄関先に出すこと、ホームの庭の散歩、車で出かけて公園等で散歩したり、地域の催しに参加すること等、種々な取組が望まれる。
50		0 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自己管理できる利用者の方には、お小遣いとして現金を所持していただいている。(一万円程度まで)家族には職員より確認のため、その旨お伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族の了承を得て、介護員が段取りを行い、本人自ら電話して連絡を取っていただく機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用スペースには、季節ごとの花を飾ったり、利用者の方が作製した作品や家族写真を展示したり、親しみやすく、安心していただける環境整備に努めている。 ・共用スペースには、温湿度計を設置したり、空気清浄機を使用したり、居心地の良い空間を提供できるように努めている。	玄関を開けると居間兼食堂になり、オープンキッチンがついている。食器棚、食卓とそのまわりの椅子やソファ、壁際の本やCDを入れた整理棚、その上に飾られた大きな花瓶の季節の花、壁には職員や利用者の写真等、整頓されすぎず、家庭的な落ち着いた雰囲気である。大きな窓から庭の柿の木や眼下の里山風景が見渡せる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・各利用者が食事を摂るテーブル配置は決まっているが、共用スペースではソファや椅子を設置したり、気心知れた利用者の方々がゆっくりとリラックスして過ごせる居場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室には、使い慣れた家具や、作品・家族写真などを装飾して、本人らしく過ごすことができるよう、状況に応じて模様を替えをしたり、居心地の良い居室空間の提供に努めている。	洋間に収納庫付きの居室、窓が大きく、季節の風が入ってくる。ベッド、筆筒、衣装かけ、椅子、テレビ等が持ち込まれている。整理棚の上に神棚を飾り、お参りしている人もいる。壁には誕生日にもらった色紙や家族の写真を飾り、自分の居場所になっている。マンションで暮らしていた利用者はまわりの音がうるさいとドアにテープを貼っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室の扉に名札や写真を貼付して、本人が認知しやすいようにしたり、必要な利用者には手すりを設置したり、安全性には十分に配慮している。		